

アグリ | ワーク | ポイント



藤枝営農経済センター 松本 武志

米粒を充実させる水管理

幼穂形成期から出穂後14日間は多量の水を必要とします。出穂後14日～30日は常時たん水にせず、間断かん水を繰り返します。

落水時期を適切に

落水時期の目安は、概ね刈取り7日～5日前とします。しかし、今年度は中干しが不十分なほ場も多いため、通常どおりの落水では稲刈りに困難な場所もあるかと思えます。ほ場の状況に応じて、落水を早めるなどの調整をしてください。ただし、稲刈り時期が高温期となる早生品種は、早期落水による極端な土壌の乾燥は胴割米の原因となるので注意してください。

ほ場ごと十分に観察して適期刈り取りを心掛け、高品質米を収穫しましょう。出穂期から収穫時期までの日数の目安は以下の通りです。

コシヒカリ：35日前後

きぬむすめ：40日前後

あいちのかおり：45日前後

病虫害防除

昨年はトビイロウンカの大発生により、地域によっては坪枯れ症状を起こしたほ場がありました。中国大陸からの飛来性害虫のため、定期的なほ場の観察が重要で、株元に複数のウンカが確認できれば、防除が必要です。坪枯れ症状が発生すると被害の拡大が速いため、稲刈りが1週間以上先の場合は、すぐに防除しましょう。防除時は、ウンカが息する株元に薬剤がかかるような散布を心掛けてください。

スタークル液剤 1000倍（収穫7日前～3回）

また、ミナミアオカメムシが多発していると静岡県病害虫防除所から情報提供がありました。8月号のアグリワークポイントの対策を確認し、斑点米対策を実施してください。

台風対策

台風時は、蒸発散が盛んになり吸水量も多くなるので、情報を確認し、早めに深水たん水することで対策をとるようにします。収穫間際で倒伏の恐れがある場合は、早刈りすることも検討しましょう。